

# 発音学習の振り返りが日本語教師の音声教育観に与える影響 —教育者と学習者の2つの立場での語りから—

日本語教師の音声教育観と音声教育実践

かわそめ ゆう  
川 染 有 (早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程) yu\_jedi@toki.wawseda.jp

## 研究目的

- ◆現場でどのような音声教育が行われているかは、教師の教育観に依るところが大きいという仮説を検証する。
- ◆日本語教師は、どのような音声教育観を持っているのか、その教育観を支えているものは何か、教師の音声教育観は実践にどのように反映しているのかを明らかにする。

## 調査方法

- ◆日本語教師または日本語教師経験者9名に、個別に半構造化インタビューを行った。
- ◆本発表では、Bさんを取り上げ、分析を行った。

## 分析観点

- ◆音声教育、特に発音指導についてどのような実践を行っているか、自分自身は外国語学習の際、どのような発音習得の目標を持ち、どのように発音学習を行ってきたかという点に注目して分析を行った。

## 調査協力者Bさん

- ◆授業で発音を意識させる機会を作りたい。
- ◆実践に活かせる音声教育の知識が必要だ。



- ◆発音も、発音に対する考え方も人によっていろいろ。あまり言わなくてもいいのかな。

考え方は揺れてます



Bさん：日本語教育歴15年のベテラン教師。現在は都内の日本語学校で初級・中級クラスを担当している。外国語学習に興味があり、自身も幅広い外国語学習歴を持つ。

## 教師としての立場 で考える発音指導



- ◆音声を教えるチャンスがない  
「主教材に音声学習項目がない」  
「時間がない、きりがいい」
- ◆発音指導に自信がない  
「実践で生かせる音声教育を学んだことがない」  
「その場でできても、すぐ元に戻ってしまう」
- ◆学習者が嫌がる  
「あまり言うと自信を失くしてしまうのでは」  
「学習者の話を途中で止めたくない」

## Bの音声教育実践を消極的にする3つの要因

- ① 発音指導用の教材の不足
- ② 発音指導についての知識の不足
- ③ 学習者の意欲低下に対する懸念

## 学習者としての立場 で考える発音学習



- ◆発音がうまくなりたい  
「ネイティブに褒められると嬉しい」  
「できなかった発音ができるようになって嬉しかった」
- ◆発音を直してほしい  
「教師に発音を指摘してほしい」  
「きれいな発音ができるように指導してほしい」
- ◆音声のプロに教えてもらいたい  
「ネイティブにどう発音するか聞いても“わからない”と言われた」  
「音声に詳しい先生のメタ的な説明がわかりやすかった」

## Bの音声習得に対する3つの学習観

- ① 高いレベルの発音習得目標
- ② 教師の指導に対する要望
- ③ 語学教師の専門性への期待

## わかったこと

Bさんが考える「教師として考える音声教育」と「学習者として望む音声教育」の形が異なることが浮き彫りになった。Bさんは、自身の語学学習における発音学習を振り返り、学習者の視点から教師としての自分を見つめることによって、「授業で発音を意識させる機会を作りたい」「実践に活かせる音声教育の知識が必要だ」と考えるようになった。